

小学校生活へ つながること

無理に教えるのではなく、子どもが気づくように、自分からできるように

子どもは、保育所・幼稚園・認定こども園等から小学校に移行する中で、突然違った存在になるわけではありません。発達是一直続していますので、小学校への移行を円滑にする必要があります。それは、小学校教育の先取りをすることではありません。また、小学校への段差を全て取り除くことでもありません。子どもの発達に必要な段差には、子ども自身の力で飛び越えられるものもあります。子どもにとって周りの新しい世界と生き生きとした関係を生み出せるようにすることが大切です。そのためには、幼児期にふさわしい教育を行って基本的なことを育てておきましょう。

子どもに接するときは、「子どもの最善の利益」を第一に考えましょう

子どもの最善の利益、すなわち子どもにとって最も良いことは何かを考えることは、大人が子どもに接する上で、とても大切なことです。子どもには、大人と同じ様に思いや考えなどを表明する権利があります。大人は、大人の考えを子どもに押し付けてはならず、子どもの目線に立って子どもの意見を受けとめなければなりません。

しかし、子どもの言うことをすべて受け入れなければならないということではありません。子どもにとって最も良いことは何かを考えて、子どもの意見が正しいときはそれを受け入れ、間違っていると思ったときは、正しく指導し、子どもを教え導くことが大切です。

《宗像市子ども基本条例リーフレット(大人版)より抜粋》



※おお客様のことでお悩みがあればご相談ください。

◎このリーフレットに関すること

子ども育成課

TEL 36-1214

◎子育ての悩みに関すること

子ども家庭相談室

TEL 36-1302

子どもの権利相談室

TEL 36-9094

◎入学に関すること

教育政策課

TEL 36-5099

◎発達支援に関すること

発達支援室

TEL 36-9098



宗像市は「子育て世代に選ばれるまち」を目指します

ロゴマークは「宗」をモチーフに子どもの笑顔を表現し、青と緑で豊かな自然を、ピンクで人々のあたたかさを表しています。キャッチコピーには、まちの魅力をみんなで創造・発信し、知れば知るほど「むむっ! すこい」と思ってもらえるまちにしたい。そんな想いを込めています。

つなげよう!
子どもたちの
育ちと学びを

スムーズな小学校入学に向けて

小学校への入学準備期は、親子で楽しんで取り組みながら入学への期待を膨らませ、小学生になるという自覚を育む期間です。

あれもこれもと急がずに、子どもの成長を見守りながら、その子にあわせたスピードで取り組みましょう。特に、子どもは大人が思っている以上に時間がかかります。また、失敗もたくさんします。しかし、そのすべての経験が子どもの成長に必要な貴重な体験です。

今回、宗像市では、子どもたちがスムーズに小学校に入学できるよう家庭で取り組んでほしい事をこのリーフレットにまとめました。

家庭における日常生活の中で、子どもの健やかな成長を育んでいきましょう。

基本的生活習慣



遊び・体験



人やものとかかわる力



宗像市では、子どもたちが小学校へスムーズに入学できるように、基本的な生活習慣や小学校での学習面、生活面、給食に関する情報などをわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、年長児の家庭に配布しています。このパンフレットは、市内の保育所・幼稚園・認定こども園の園長先生や小学校の校長先生たちをメンバーとする宗像市幼児教育研究協議会の中でも話し合い、宗像市が独自に作成したものです。

宗像市の子どもたちがスムーズに育ちと学びをつなぐためには、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の連携はもちろんですが、家庭の協力が不可欠です。

ぜひ、このパンフレットの趣旨をご理解いただき、ご家庭で活用していただきますようお願いいたします。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



- お子さんと一緒に見ていただき、小学校入学にむけて、ご家庭で少しずつ取り組んでください。
- 子どもは大人が思っている以上に時間がかかり、失敗もたくさんしますが、そのすべてが貴重な体験です。あれもこれもと急がずに、できていることはしっかりと褒め、できていないことはダメと叱らず、お子さんの成長に合わせて取り組んでください。
- 「あれもできない」「これもダメ」「そんなことじゃ、小学生になれないよ」など、できないことを注意するのではなく、「これはできているね」「これができるようになったね」など、できたことをたくさん褒めながらお子さんに自信をもたせてください。
- くり返し見直ししながら取り組めるように、大切に保管してください。

小学校生活に向けて（学習面）

保育所・幼稚園・認定こども園、小学校と段階が分かれていても、子ども自身はつながりをもって成長し続けています。しかし、保育所・幼稚園・認定こども園と小学校では、生活スタイルや周りの環境が大きく変わります。この大きな環境の変化に、不安やストレスを感じる子どもも少なくありません。小学校生活に向けて、環境の変化に少しでも慣れるために、今から準備できることはしておきましょう。

姿勢

集中力は姿勢からです。疲れにくい正しい姿勢ができるようにしましょう。



- ☐ 正しい姿勢ができる
- ☐ 45分間落ち着いて座っていられる

のり・はさみ

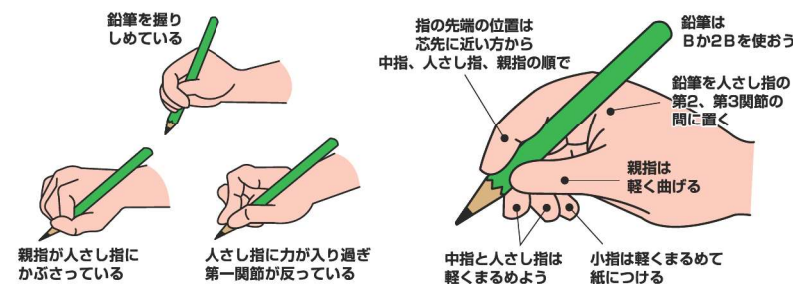
はさみを左手で使う場合は、左利き用を用意しましょう。のりは、指先を使って塗るようにしましょう。



- ☐ のりを上手にぬれる
- ☐ はさみを正しく使える

鉛筆の持ち方

入学前に鉛筆を持たせるときは、正しい持ち方・使い方練習しましょう。鉛筆の持ち方、ひらがなの形や書き順を間違えて覚えてしまうと、正しく覚え直すのに時間がかかることもあります。



- ✗ 鉛筆の持ち方が悪いとき**
- ・腕、肩に余計な力が入る
 - ・姿勢が崩れて集中力が落ちる（質の高い学習ができない）

- 鉛筆の持ち方が良いとき**
- ・身体に無駄な力が入らない
 - ・姿勢を保て、集中力も持続する（質の高い学習ができる）

- ☐ 正しく鉛筆をもつ

小学校生活に向けて（生活面）

通 学

実際に子どもと通学路を歩きながら、危険な場所をチェックしましょう。また傘をさしていても車や周りに注意して歩けるようにしておきましょう。



- ☐ 家から小学校までの道がわかる
- ☐ 交通ルールを守る
- ☐ 雨の日に傘をさして歩ける

時 間

時計を読む必要はありませんが、「7時にご飯」「9時に寝る」など時間を決めて行動しましょう。



- ☐ 時間を意識して動く

物の管理

机や靴箱、ロッカーを探すために、ひらがなで書かれた自分の名前は読めるようにしましょう。また、持ち物には名前を書いておきましょう。

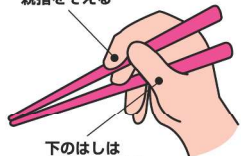


- ☐ ひらがなの自分の名前を読める
- ☐ 必要なものを自分で用意する
- ☐ 使ったら元の場所に片づける

給 食

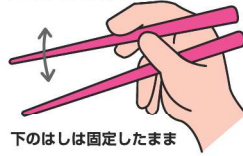
小学校は、苦手なものを無理に全部食べさせることはしません。しかし偏食をなくすために、「ひと口でもいいから食べよう」と声をかけたり、好き嫌いをなく食べる大切さの指導をします。また給食時間は決められていますので、食べることに集中できるようにしましょう。ジャムやナッツなどの小袋をあげたり、ミカンやハッサクの皮むき、魚や皮付きのリンゴなど何でも一人で食べられるようにしましょう。

上のはしは
中指・人差し指で軽くはさみ、
親指をそえる



下のはしは
親指のつけ根と
くすり指で支える

上のはしだけ動かす



下のはしは固定したまま

- ①鉛筆を持つようにはしを1本持つ。真ん中よりやや上を持つと見た目もきれい。
- ②もう1本のはしを中指とくすり指の間に入れて、親指のつけ根で固定。
- ③両方のはし先をそろえ、上のはしだけ動かして食べ物をはさむ。
(下のはしは固定したまま動かさない)



- ☐ 正しいはしの持ち方・使い方ができる
- ☐ いろいろなものを一人で食べる
- ☐ よくかんで30分程度で食べる

基本的生活習慣

規則正しい生活リズムは、子どもの身体のリズムを整え、生涯を通じて健康的な生活をおくる基礎を培うことにつながります。

幼児期は、親や身近な大人の関わりが子どもの成長に大きく影響し、愛情やしつけを通して子どもの心身の基礎を築く時期です。ほめて応援しながら、やり方を根気強く教え、愛情を持って見守りましょう。また、家族も生活習慣を見直し、手本となるよう協力しながら取り組むことが大切です。

食 事

朝ごはんは、午前中の脳や身体のエネルギー源となります。また、目覚めの促進にもつながります。



- ☐ ごはんをよくかんで食べる
- ☐ 家族一緒に楽しく食べる
- ☐ 食べものへの感謝の気持ちをもつ

睡 眠

特に寝る時間が大切です。寝る時間が同じなら、起きる時間やその後の活動もスムーズです。



- ☐ 9時までには寝る
- ☐ 十分な睡眠（9～10時間）をとる
- ☐ 朝は一人で起きる

排 泄

小学校のトイレには和式があります。機会をつくりできるだけ練習しておきましょう。



- ☐ 排泄を自分でする
- ☐ 朝、家であんちをする

着 脱

ボタン・ファスナー・リボンなどがあっても一人で着脱できるようにしましょう。



- ☐ 衣服の着脱や調節を自分でする
- ☐ 脱いだ衣服・靴を整える

衛生（清潔）

手洗い、うがいは病気の予防になります。外から帰ったらする習慣をつけましょう。



- ☐ 手洗い、うがいをする
- ☐ 歯磨きを自分でする
- ☐ 朝、起きたら顔を洗う

遊び・体験

幼児期の子どもは、遊びや体験を通して学び、心身の発達を遂げていきます。

子どもにとっての遊びは、子ども自身の興味や関心に基づく活動で、身近な環境や人との関わりの中で生まれてきます。子どもは好奇心や探究心が旺盛で、自発的に周りに関わりながらさまざまなことを学んでいます。家庭でも意識して色々なことを体験させてあげましょう。

外遊び

自然界のいろいろな刺激を受けることによって、心とからだ豊かに育ちます。



- ☐ 全身を使って遊ぶ
- ☐ 自然にふれて遊ぶ
- ☐ 動植物に親しみをもつ

友だち

友だちと一緒に遊ぶことで、対人関係の基礎を学び、交流を通して感情が豊かになります。



- ☐ 友だちと一緒に遊ぶ
- ☐ 思いやりをもつ
- ☐ きまり・約束を守ろうとする

人とかかわる力

人とかかわる力の基礎は、自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安定感から生まれる「人に対する信頼感」をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われます。家族や友だちと関わる中で、共に活動する楽しさや葛藤などを通して、共感や思いやりなどをもつように、子どもの行動を見守りながら援助してあげましょう。

あいさつ

あいさつや返事は、社会生活の基本です。家庭で大人自ら手本を示しましょう。



- ☐ 「おはよう」と挨拶する
- ☐ 「ありがとう」と感謝する
- ☐ 「ごめんなさい」と謝る
- ☐ 「はい」と返事をする

気持ちを伝える

例えば、「先生、トイレ」ではなく、「先生、トイレに行きたいです」と、きちんと伝えるようにしましょう。



- ☐ 自分の思いを伝える
- ☐ 分かるように伝える
- ☐ 相手に応じた言葉を使う

家族とのふれあい

お手伝い等どうやったら上手にいくのか、効率的なのかを試行錯誤しながら、考える力や好奇心が高まります。



- ☐ 頼まれたら素直にできる
- ☐ 家族を大切にする
- ☐ 責任をもってやり通す

数量や図形、標識や文字などへの関心

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねます。



- ☐ 数量や文字に興味や関心をもつ
- ☐ 散歩の時などに交通ルールを知る
- ☐ 道路標識の意味を知る

人の話をきく

しっかり聞くことは、すべての学習において必要なことです。大人は子どもの目を見て話しましょう。



- ☐ 絵本の読み聞かせを楽しむ
- ☐ 相手を見て聞く
- ☐ 最後まで聞く

地域のさまざまな人と親しむ

駅や公共の乗り物、コミュニティセンター等を大切に利用しましょう。



- ☐ マナー、順番を守る
- ☐ お年寄りや小さな子どもに席をゆずる